

プロ野球中日ドラゴンズの選手が使用して折れたバットから作られた指揮棒が完成し、十七日、愛工大名電高（千種区）の吹奏楽部に贈られた。指揮棒は名古屋豊学校（同区）の生徒が二十本製作しており、東海地方にある中日選手の出身高校などの吹奏楽部にも届けられる。

（梶山佑）



中日ドラゴンズの選手が使用し、びが入ったバットと指揮棒

## 名古屋豊学校生が製作

名古屋フィルハーモニー交響楽団（名フィル）正指揮者の川瀬賢太郎さんが昨年十一月にツイッターで提案して始まったプロジェクトの一環。中日ドラゴンズがバットを提供し、名古屋豊学校高等部専攻科の産業工芸科の生徒が削り出して加工。川瀬さんが何度も助言し、長さ二十八センチの指揮棒を完成させた。

十七日は愛工大名電高で贈呈式があり、産業工芸科二年の福川廉太郎さんや川瀬さんらが出席。吹奏楽部顧問の伊藤宏樹教諭に指揮棒を手渡した。川瀬さんはあいさつで「音楽は人々の心に栄養を与える。指揮棒が名古屋をつなげる役割をになってくれれば」と話した。

贈呈後には、指揮棒のお礼としてフェースシールドを着けた部員五十五人が吹奏楽曲二曲を演奏した。指揮棒を早速振った伊藤教諭は「軽いけど、重い。強い味方を得た感じがする」と喜んだ。

# 竜選手の折れたバットで指揮棒 愛工大名電高に寄贈



折れたバットから作った指揮棒を吹奏楽部の伊藤教諭（左端）に贈る（右から）名古屋豊学校の福川さん、名古屋フィルハーモニー交響楽団の川瀬さん、中日ドラゴンズ球団職員の堂上剛裕さん＝いずれも千種区の愛工大名電高で